

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H1列にあれば記述
(1) 国際日本学部の理念・目的は適切に設定されているか							
a	<p>◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。</p> <p>◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。</p> <p>【約500字】</p>	<p>国際日本学部は、「教育・研究に関する年度計画書」【1-10-1 138頁】において、「世界の中の日本」という視点に立って日本の文化・社会に対する深い理解に根ざした価値ある情報を発信できる国際人の育成を目標として掲げており、本学のさらなる国際化を速やかに実現するため国際的な情報発信力を強める独自の教育体系を構築・推進し、双方向の留学生交流と国際学術交流を精力的に促進して国際的研究教育の拠点となること、そして、優れた語学力はもとより多面的に個人としての競争力を高め広く国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。この理念・目的は「人材養成その他の教育研究上の目的」として学則別表9に定められており、日本学を教育・研究の中心領域とし、集中的な英語教育と異文化コミュニケーション教育にも力を注ぎ、積極的に世界に価値ある情報を発信できる国際人の育成を行うことを規定している【1-10-2】。これらの理念・目的は、学校教育法に照らして、適切であると考えられる。</p>	<p>国際日本学部の理念は、グローバル化が進む社会で活躍する人材に求められる条件を満たしている。日本の得意とする領域に関する多面的な科目構成は、日本を発掘・再発見する上で必要なだけでなく、世界を多面的に把握する上でも効果的である。また、その発信に必要なしっかりした日本語力養成の科目が必修であり、高い英語力については年々TOEIC®の平均点が上昇しており、すでに715点を超えている【1-10-3】。本学部が誕生して以来、他大学でも「国際日本学」を冠する学部・大学院が次々に生まれていることは、この分野が社会的に求められていることを表している。</p>		<p>国際日本学部の学生に多様な観点から日本を考え、その魅力を発信させることと、その発信のための英語力の養成については成功しているが、次の段階として、それをどう社会人として活かしていくかについては、更なる充実が必要と考える。具体的には、国際マーケティングや国際ビジネス領域、ダイバーシティ教育、英語だけでなくトライリンガルへの挑戦、文化についてのより深い理解、ICTのスキル等である。</p>		<p>1-10-1 2015年度教育・研究に関する年度計画書138頁 1-10-2 明治大学学則別表9 1-10-3 国際日本学部 TOEFL® TOEIC® 統計資料</p>
b	<p>●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。</p> <p>【約100字】</p>	<p>本学の建学の精神と使命を基礎として、国際日本学部の理念・目的には、多面的に個人としての能力を高め国際社会で貢献できる人材の育成、積極的に世界に価値ある情報を発信できる国際人の育成を謳っており【1-10-4】、目指すべき方向性を明確にしている。</p>	<p>グローバル化した社会において、強い「個」とは、物事を多様な観点から捉え、柔軟に発想し、多様な人々と連携できる力であり、凝り固まった単眼的なものではない。この点から国際日本学部の理念は、まさに現代における本学の建学の精神を明確に表している。</p>		<p>アジア、特にアセアンの発展に伴い、欧米モデルだけでなく、アジアモデルの中で日本はどのような役割を果たすかが重要になってきた。国際日本学部もこの点をしっかり踏まえた発展を目指す。</p>	<p>1-10-4 国際日本学部ホームページ[概要 国際日本学部とは]http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html</p>	
(2) 国際日本学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか							
a	<p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。</p> <p>【約150字】</p>	<p>国際日本学部の理念・目的については、教職員及び学生に対しては学部便覧【1-10-5 9-11頁】を通じて周知している。あわせて新入生に対しては入学時の「新入生総合ガイダンス」内でパワーポイントを使用して教務主任からわかりやすく紹介している【1-10-6】。また、受験生に対しては大学ガイドや学部ガイド【1-10-7】、さらに、社会一般には刊行物やホームページ【1-10-8】などを通して理念・目的を公表している。なお、本学部は、多数の留学生を受け入れており、多言語版のホームページでも同様に理念・目的を公表している。</p> <p>教職員に対してはさらに、執行部が作成した「国際日本学部の2014年度の総括と2015年度の展開」が教授会で配布され、その理念・目的について周知している【1-10-9】。</p>	<p>日本の面白さ、優れた点を世界の観点からもう一度見直し、(再)評価して、それを世界に発信するという説明は分かりやすく、学生にはシラバスの他必修科目の「国際日本学講座」等で伝わっている。受験生についても、中野でのオープン・キャンパスが好評だったことから本学部の理念・目的が周知され、認められていることを示しており、一定の受験生をしっかり掴んでいる。</p>		<p>国際日本学部は、社会の時流に乗っており、拡大発展の途上にある。特に、イングリッシュ・トラックをはじめ、国際化ではSGUで中核的な役割を担う期待も大きく、攻めの姿勢が必要な学部である。このため、執行部の現状認識や新たな施策案を文章化し、学部内の理解を常に確認しつつ、社会に向けた不断の発信が必要と考えている。</p>	<p>1-10-5 2015年度国際日本学部便覧9～11頁 1-10-6 2015年度新入生総合ガイダンスパワーポイント資料 1-10-7 2016年度国際日本学部ガイド 1-10-8 国際日本学部ホームページ[概要 人材養成その他教育研究上の目的]http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p0000fzkkv.html 1-10-9 国際日本学部の2014年度の総括と2015年度の展開(案)</p>	

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況の評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) HI列にあれば記述		
(3) 国際日本学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか							
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念・目的の検証については、学部教授会、教授会員により行われる教授会意見交換会、将来構想・カリキュラム検討委員会などの議論を踏まえ、毎年度実施されている「教育・研究に関する年度計画書」の作成時において、「学部執行部」が長期・中期計画に記載される「理念・目的」の原案をまとめる際に検証し、「教授会」で審議承認する手続きとなっている【1-10-10 議事6】。 また、執行部が作成した「国際日本学部の2014年度の総括と2015年度の展開」に基づき、学部の理念・目的に沿った計画がなされているか教授会で議論・確認をしている【1-10-9】【1-10-11 議事12】。	理念・目的とそれに関連した具体的な施策については、年度計画書のための議論だけでなく、学部長(執行部)による詳細な学部の前年度の総括と今年度の展開案が教授会に示され、議論されて全員が確認している。さまざまな発展的な展開が続く本学部では、教授会員の理解が不可欠であり、このような明確な議論のプロセスが必要であり、それが効果的に機能している。なお、2015年度の展開としては、インターシッププログラムの拡充、イングリッシュ・トラックのカリキュラム改革等が確認された。		今年度提示した「総括と展開」について、今後も同様の方法で継続的に教授会にて議論・確認していく。			1-10-9 国際日本学部の2014年度の総括と2015年度の展開(案) 1-10-10 国際日本学部教授会議事録(2014年6月20日)議事6「2015年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について」 1-10-11 国際日本学部教授会議事録(2015年5月8日)議事12「国際日本学部の2014年度の総括と2015年度の展開について」

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 国際日本学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	大学が毎年定める学長による「教員任用計画の基本方針」に基づき、本学部の求める教員像は、「学部の教育理念を理解し、その実現に向けた活動に専心するとともに、国際化の推進に貢献できる教員」とし、教員組織の編制方針についても、「設置科目に適合する教員、グローバルな視野で学生を指導できる教員、将来における本学の教育研究活動の発展に資する教員から組織・構成すること」を掲げている。これらは、「教育・研究に関する年度計画書」【3-10-1 139頁】に示し、同計画書を教授会で審議承認することにより、組織的に共有されている【3-10-2 議事6】。					3-10-1 2015年度教育・研究に関する年度計画書:139頁《既出1-10-1》 3-10-2 国際日本学部教授会議事録(2014年6月20日)議事6「2015年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について」《既出1-10-10》
b	◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	教員の任用・昇格の基準等に関しては、「明治大学教員任用規程」、「学部長会における教員の任用及び昇格審査基準」、「国際日本学部教員等任用審査内規」【3-10-3】により明文化し、教授会承認を経て運用している。また、毎年、「国際日本学部教員任用(専任、特任)に関する基本方針」【3-10-4】を将来構想・カリキュラム検討委員会、人事委員会、執行部会議での検討を踏まえ、教授会で審議承認しており、当該方針を基に、公募要領(本学ホームページ及び研究者人材データベース(JREC-IN)に掲載し広く一般に公募)において、博士の学位を有する者、あるいはそれと同等の学識経験を有する者、英語での教育能力を有する者等の資格要件、求める能力・資質を明らかにしている【3-10-5】。					3-10-3 国際日本学部教員等任用審査内規 3-10-4 国際日本学部教員任用(専任および特任)に関する基本方針 3-10-5 国際日本学部教員公募要領
c	◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	組織的な教育を実施する上において必要な役割分担と責任の所在について、教育研究にかかわる事項は学部長が議長を務める教授会において審議しており、最終的な責任は教授会及びその責任者である学部長が負う体制になっている。教授会の下には、将来構想・カリキュラム検討委員会、入試委員会、国際交流委員会等の9つの学内委員会を設置し、当該委員会で議論した内容を学部長、教務主任等8名の役職者による執行部会議で検討、各種調整のうえ、最終的に議決機関である教授会において審議承認する態勢をとっている【3-10-6】。 任期付教員については、特色ある授業科目を担当する教員、英語授業科目を展開する外国人教員(週1~2回のオフィスアワーも担当)【3-10-7】、英語で講義をおこなう教員等を特任教員として、最新の教育研究事情や実務的な講義をする教員を客員教授、特別招聘教授として、任用している。					3-10-6 2014-2015年度学内委員会名簿 3-10-7 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス時間割]http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.htmlhttp://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p00000e66ny.html
(2) 国際日本学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
教員の編制方針に沿った教員組織の整備							
a	◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】	大学設置基準上の必要教員数が17名であるのに対し、2015年5月1日現在の専任教員数は53名であり基準を充足している。この教員数は、専任教員一人当たりの学生数で示せば、収容定員(1,350名)ベースで25.5名、学生現員ベースで30.3名である【3-10-8 表13】。 専任教員のバランスについて、年齢構成については36歳から65歳までの各年齢層にほぼ平均的に分布している【3-10-8:表10】。外国人教員は17名(32.1%)在籍し、女性教員も16名(30.2%)在籍しており、本大学の中で一番高い割合である【3-10-8 表14】。 外国人教員、女性教員ともに前年度から1名それぞれ増加したが、学部の求める教員像に沿った教員組織が維持できるように配慮している。	年齢構成については、特定の年齢に偏ることなく均等に組織されている。また、外国人教員の比率及び女性教員の比率も本学で最も高くなっている。		教員任用にあたっては引き続き国際公募を原則とし、本学部の教員編制方針に則した採用を行っていく。		3-10-8 明治大学データ集表10,表13,表14

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) HI列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>G列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p>					Alt + Enterで箇条書きに	
<p>b ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】</p>	<p>2015年度における担当授業時間数の平均は、資格別では教授12.2時間、准教授14.5時間、講師8.4時間となっており、研究時間の確保に配慮している。【3-10-8 表12】。 学部開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は、「国際日本学講座」「ICTベーシック」「日本語表現」の必修科目については、47.2%を専任教員が担当、「英語科目」「日本語科目」の必修科目については、30.1%を専任教員が担当、自由選択科目については、62.8%を専任教員が担当している。学部合計の専兼比率は、専任割合が52.0%であるが、兼任講師による多様な講義が行われている【3-10-8 表16】。カリキュラムの見直しや専任教員の増員計画などによって、専任教員の担当比率を高めるよう努めている。 また、本学部では、国際人の育成を掲げ、国際・日本をキーワードに英語教育・日本語教育・人文科学系・社会科学系の学際的な多様な科目を提供するために特任教員や客員教員を積極的に任用しており、英語教育の特任教員11名、日本語教育の特任教員1名、人文社会科学系の特任教員4名と助教1名、情報系特任教員1名が授業を担当している。柔軟な教員制度を積極的に活用して、編制方針に従い、教育課程の充実及び特色化を図っており、方針と教員組織の編制実態は整合している。ただし、本学部を特徴づける英語による授業に関して、相当数の教員が、日本語による授業に加えて英語による授業を担当しているというのが現状であり、それらの教員の過大な負担が問題となっている。 なお、英語教育の特任教員10名の任用期限が2016年3月末に切れることにより、新たに英語教育の専任教員2名と特任教員6名を採用する予定であるが、英語教育に携わる教員数が2名減ってしまうため、英語カリキュラムの維持と教育の質の確保が課題となっている。</p>		<p>方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているものの、英語による授業の充実のために、現状では、一部の専任教員が、日本語による授業に加えて英語による授業を担当することを余儀なくされ、過大な負担を強いられている。また、2016年3月末に退職する英語特任教員10名が担当している教育の量と質を同年4月に任用する英語教員8名によって維持するための策を講ずる必要があるが、それは非常に困難である。</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</p>	<p>全学的に展開されている国際教育プログラムの英語による授業や、他学部の英語による授業を本学部学生が履修しやすい環境を作る。具体的には、そのような授業の中野キャンパスでの開講あるいは中野キャンパスへの配信（遠隔授業）をお願いする。</p>	<p>全学的なカリキュラム改革と協働する形で、英語による授業のカリキュラム改革を進める。国際大学に連携を働きかける。</p>	<p>3-10-8 明治大学データ集表12, 表16</p>
<p>教員組織を検証する仕組みの整備</p> <p>c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】</p>	<p>教員組織の検証プロセスについては、「将来構想・カリキュラム委員会」の審議を踏まえ、「学部執行部」で、毎年度6月に「教育・研究に関する年度計画書」において教員・教育組織に関する長中期計画を策定し、学部教授会で承認している。 この長中期計画は、翌年1月に学長から示される「教員任用計画の基本方針」に従い、学部教授会において次年度の「学部教員任用計画」として具体化される。「教育・研究に関する年度計画書」の長中期計画の策定にあたっては、自己点検・評価結果を参考としながら、教員・教育組織を検証し、その編制方針・任用計画の見直しを行い、学部教授会において審議・了承された後、学長に提出している。 「学部教員任用計画」の策定にあたっては、将来構想・カリキュラム委員会、人事委員会、執行部会議において、学部の将来構想や必要な授業科目の検証とあわせて、補充・増員すべき教員の主要科目や資格を検証し、教員教育組織の検証を行って計画を立案している【3-10-9】。 2014年度は、自己評価の結果改善を要する点として挙げられていた英語で講義を行う授業の充実を図るため、英語で講義を行える能力を十分に有した専任教員、特任教員及び助教を1名ずつ採用した。</p>					<p>3-10-9 2016年度専任教員及び特任教員任用計画書</p>	

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) HI列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a	<p>●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、 手続を明文化し、その適切性・透明性を担 保するよう、取り組んでいるか。 【400字】</p>	<p>教員の任用・昇格の基準・手続等に関しては、「明治大学教員任用規程」、「学部長会における教員の任用及び昇格審査基準」、「国際日本学部教員等任用審査内規」により明示し、厳格に運用をしている【3-10-3】。</p> <p>専任・特任教員の募集にあたっては、将来構想・カリキュラム検討委員会、人事委員会、執行部会議での検討を踏まえ、教授会で承認する「国際日本学部教員任用（専任、特任）に関する基本方針」に基づき、審査委員会・執行部会議において公募要領を作成し、教授会で確認のうえ、本学ホームページ及び研究者人材データベース（JREC-IN）に掲載し広く一般に公募している【3-10-5】。</p> <p>任用・昇格審査については、「審査委員会」「主査、副査」を設置して推薦者の選定及び業績審査を行っている。審査では、書類選考のうえ、候補者を面接（教育経験の浅い場合など、面接時などに模擬授業を行っている場合もある）し、研究上の業績に加え、教育上の実績及び職務上の実績も審査・評価し、担当科目に関して的確に授業運営する能力を有するかどうかを判断したのちに、その審査結果を教授会において、審議・承認している。</p> <p>以上のとおり募集・採用・昇格の手続きが行われており、適切性・透明性が十分に担保されている。</p>					<p>3-10-3 国際日本学部 教員等任用審査内規 3-10-5 国際日本学部 教員公募要領</p>
(4)教員の資質の向上を図るための方策を講じているか							
教員の教育研究活動等の評価の実施							
a	<p>●教員の教育研究活動の業績を適切に 評価し、教育・研究活動の活性化に努め ているか。 【400字】</p>	<p>教育・研究活動の活性化に資する業績評価については、執筆活動や学会活動などは個人業績として毎年公表され、Oh-o!Meijiシステムで教員データベース上に更新しながら公開している。科研費などの研究費取得などについては、学部教授会でその実績が紹介され、外部にも公表されている【3-10-10】。</p> <p>また、学部の紀要である「国際日本学研究」は、査読により紀要・学生論集編集委員会で掲載を許可された論文を掲載し、明治大学学術成果リポジトリ（明治大学において創生された研究・教育成果や知的生産物を収集し、インターネットを介して学内外に情報発信する電子アーカイブシステム）への登録を原則的におこなっている。2014年度の紀要は、計7本の論文等を掲載した【3-10-11】。</p>		<p>教育研究業績の評価については、現状の説明に記載されたように行われており、科研の採択率や授業アンケートの結果は明治大学全体に比べて良い。しかし、自主的なものであり、優秀な研究教育業績についての顕彰や不十分なものについての注意喚起は行われていない。</p>	<p>国際日本学部の教員の専門領域は非常に幅広く、学部全体で比較するようなことは馴染まない側面がある。また、現状をみると、教育研究については概ねきちんと取り組まれている。しかし、何らかの評価を導入することは必要と考えられ、教育研究に顕著な功績のある教員に報いる制度などから検討したい。</p>	<p>3-10-10 専任教員データベース http://gyosekil.mind.meiji.ac.jp/mjuhp/KgApp 3-10-11 国際日本学研究 第7巻第1号</p>	
教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性							
b	<p>●教育研究、その他の諸活動(※)に関する 教員の資質向上を図るための研修等を 恒常的かつ適切に行っているか。 (※)社会貢献、管理業務などを含む『教 員』の資質向上のための活動。『授業』の 改善を意図した取組みについては、「基準 4」(3)教育方法で評価します。 【600～800字】</p>	<p>教員の資質向上を図るための研修等については、研究倫理理解、科研費の申請・外部資金の活用理解などに関しては研究知財事務室による教授会での説明や配付資料により資質向上へとつなげている。ハラスメントや個人情報保護に関しては、大学の用意する冊子や文書、教授会等での説明によって意識の向上が図られている。2014年度は、4月に新任教員向けに研究費の申請方法を説明する研修会、学部主催で「Oh-o!Meijiシステム研修会」を実施した【3-10-12】。</p> <p>また、教員間の研究活動の活性化を図ることを目的として、国際日本学部教員による自身の教育研究内容を報告する「国際日本学部教員フォーラム」を2014年8月1日、2014年11月7日、2015年4月17日の計3回開催した。この教員フォーラムは専任、特任すべての教員が傍聴することができ、総合数理学部所属の教員にも声をかけて、広く開かれた場として開催している【3-10-13】。</p>	<p>教員フォーラムを行ったことにより、各教員の研究活動に対する相互理解が深まった。</p>		<p>昨年に引き続いてまだ3回目の開催なので、今後も継続して教員フォーラムを開催していき、その効果を検証する。</p> <p>また、在外研究・特別研究が終了した教員にフォーラムでの発表を願ひし、より最新の研究内容を共有できるようにする。</p>	<p>3-10-12 4月のスケ ジュールについて(お 知らせ) 3-10-13 教員フォー ム開催通知</p>	

2014年国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 (1)教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。							
a	◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	学則別表9【4(1)-10-1】には、伝統的な日本文化に加えて、今日世界への情報発信が強く求められている現代日本文化、さらには、それらの発信基盤である広義の社会システムを学び、さらに、学んだことを世界に発信するために必要な言語である英語能力の修得を明示している。 これに基づく学位授与方針として、課程修了にあたって修得すべき学習成果において以下の5点を定めている。 ①現代日本文化及びその基礎である日本の伝統文化並びに日本文化の発信基盤となる日本型社会システムに関する専門的な教育・研究を通して、世界に価値ある情報を発信できる能力を修得する。 ②国際関係や諸外国の文化・社会・経済・歴史等に関する広くかつ正確な知識を修得する。 ③英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) に関する統合的な教育を通して、英語による思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、国際社会で活躍できる (英語で仕事ができる) 高度な英語力を修得する。 ④日本文化の基礎となる日本語の基礎力、表現力、発信能力及び日本語に関する高度な教養・知識を修得する。 ⑤多様な文化背景を持つ学生からなる多文化コミュニティーでの経験や海外への留学等を通して、異文化理解力、高度な国際感覚及び実践的外国語能力を修得する。 その達成のための諸要件として、所定の要件を満たし、必要修得単位数124単位を修得した者に「学士 (国際日本学)」の学位を授与している。					4(1)-10-1 明治大学学則別表9《既出1-10-2》
(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。							
a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき学習成果を達成するため、「教育課程編成・実践方針」を設定し、教授会において定めている【4(1)-10-2 議事5】。 「教育課程の理念」として、グローバル時代にふさわしい国際人を養成するため、集中的な英語教育と国際教養教育に力を注ぐとともに、伝統的な日本文化に加え、今日世界の注目を集めている現代日本文化、そしてその発信基盤である社会システムについての教育に力を注ぐことを明示している。 また、「教育課程の特長」として、1年次に文献及び資料の活用方法、情報リテラシー、レポートの書き方等研究を主体的に行うための「初年次教育」、3・4年次における教員との、および学生同士の議論を通じた専門的学びのための「演習」の重視、幅広く正確な国際日本学の知識を修得するために、8つの領域の提供、1・2年次の必修科目である英語について「英語で仕事ができるレベル」を到達目標とした習熟度別のクラス編成、20人前後の少人数教育の実施、英語による講義科目の一定単位以上の履修、国際的視野を涵養し、日本を世界の中で捉え直し日本研究を深化させる契機とする「アカデミック留学・インターンシッププログラム」や「夏期海外語学留学」の実施、「日本語表現」の必修化による日本語教育の重視、世界から多様な外国人留学生を受け入れ、留学生と日本人学生がともに学び刺激し合うためのイングリッシュ・トラック (ET) の設置を掲げている。					4(1)-10-2 国際日本学部教授会議事録(2015年1月9日)議事5「ポリシーの検証に基づく今後のポリシーについて」
b	●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】	学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関については、学位授与方針で目指すべき人材像を「広く国際社会で活躍できる人材」と定め、教育課程の編成・実施方針で、グローバル化時代にふさわしい国際人を養成するための具体的な教育課程の特徴として、8つの研究領域にわたる科目の提供、英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) に関する統合的な教育を通しての集中的な英語教育、日本文化の基礎となる日本語の基礎力、表現力、発信能力及び日本語に関する高度な教養・知識を修得するための日本語教育、海外留学プログラム、イングリッシュ・トラックなどが示されており、両方針は連関している。	課程修了時に、学位授与方針で示された目指すべき人材像の到達目標が達成されるように教育課程が編成されており、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は適切に連関している。	学生が修得しておくべき学習成果をさらに効率的にあげられるよう、海外留学プログラムの機会を拡充するなど、カリキュラム編成・教育方法に工夫を重ねる。			

2014年国際日本学部 自己点検・評価報告書

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(3)教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員及び学生等)に周知され、社会に公表されているか</p>							
a	<p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】</p>	<p>本学部の教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は、学生・教職員には「学部便覧」【4(1)-10-3 9-11頁】において周知されている。また、新入生には、入学時の「新入生総合ガイダンス」内でパワーポイントを使用して教務主任からわかりやすく紹介している【4(1)-10-4】。保護者や受験生に対しては、父母会・高校説明会・進学相談会などの機会、大学ガイド・学部ガイド等を通じて周知を図り、社会に対しては、「学部ホームページ」【4(1)-10-5】において逐次最新のものを周知・公表している。</p>					<p>4(1)-10-3 2015年度国際日本学部便覧9～11頁《既出1-10-5》 4(1)-10-4 2015年度新入生総合ガイダンスパワーポイント資料《既出1-10-6》 4(1)-10-5 国際日本学部ホームページ[国際日本学部の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)] http://www.meiji.ac.jp/nippon/policy/01.html</p>
<p>(4)教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</p>							
a	<p>●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>「学位授与方針」及び「教育課程の編成・実施方針」とも、学則別表改正などのカリキュラム検討時(11～1月頃)に、学部内の「将来構想・カリキュラム検討委員会」で検証の後、執行部会議、教授会において、審議承認を行っている。 2014年度は、カリキュラム変更(新規科目設置等)検討時期(1月9日教授会)に、学部内「将来構想・カリキュラム検討委員会」での検証、執行部会議・教授会での審議承認を経て、「学位授与方針」及び「教育課程の編成・実施方針」の文言を一部修正した。 【4(1)-10-2 議事5】 また、国際日本学部では、卒業生を対象としたアンケートを実施しており、その中で国際日本学部の理念・目的の達成度について調査している。2014年度の同アンケートではディプロマポリシーで示している5項目の達成度を調査した結果、平均71.3%の学生から肯定的な意見を得た【4(1)-10-6】。</p>	<p>「学位授与方針」および「教育課程の編成・実施方針」の適切性に関して、委員会・教授会の検証責任・手続が明確にされており、また実際の検証・承認を通じて改善が行われて適切性が確保されている。 卒業生アンケートにおいても学部理念・目的の達成度は高く評価された。</p>		<p>2015年度に卒業する予定の旧カリキュラム適用学生及び2016年度に卒業する予定の新カリキュラム適用学生へのアンケート結果を蓄積していく。</p>		<p>4(1)-10-2 国際日本学部教授会議事録(2015年1月9日)議事5「ポリシーの検証に基づく今後のポリシーについて」 4(1)-10-6 2014年度卒業生向けアンケート実施結果について</p>

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1)教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況						
a ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	<p>グローバル化時代にふさわしい国際人を養成するために、「集中的な英語教育」「国際教養教育」「日本の文化や社会システムについての魅力ある教育」を行うという教育課程の編成・実施方針に基づき、「日本語によるコース」と「イングリッシュ・トラック(英語による授業のみで学位が取得できるコース)」を設置し、必要な授業科目を設置・編成している。</p> <p>2013年度から新カリキュラムを編成し、「外国語科目」「国際日本学専門科目」「総合教育科目」「演習科目」「海外留学認定科目」「国際教育プログラム科目」に整備した。「国際日本学専門科目」には、基礎的・概要的な科目と応用的・具体的な科目が偏りなく設置され、配当年次が示されている【4(2)-10-1 24-31頁】</p> <p>【4(2)-10-2 表17】。1・2年次の必修科目である「英語」は、習熟度別の少人数クラス編成とし、英語で仕事ができるレベルを到達目標としている。日本語の教育も重視し、「日本語表現(口頭表現)」及び「日本語表現(文章表現)」をイングリッシュ・トラックの学生を除く全学生の必修科目とするとともに、留学生には、留学生向け「日本語」を必修科目としている。さらに「アカデミック留学・インターンシッププログラム」への参加を奨励し、留学した学生には「留学関係科目」など単位を認定している【4(2)-10-2 表25】。また、主体的に専門的な勉学を進める場として3・4年次に配置されている「演習科目」を重視している。</p> <p>卒業要件単位数は124単位で、日本語による開設講義科目数は238科目(国際教育プログラム基幹科目除く)である。必修は、外国語科目の「英語」(加えて外国人留学生は「日本語」)、総合教育科目の「国際日本学講座」「日本語表現(文章表現)」「日本語表現(口頭表現)」「ICTベーシックI」で、すべて1・2年次に配当されている。3・4年次には必修科目を設置せず、国際日本学専門科目、総合教育科目などから、学生が将来の進路や学問的関心に基づいて履修できるようになっている。また、卒業単位のうち12単位は、「英語で講義を行う科目(type1,type2)」から修得することを要件としている【4(2)-10-1 18～23頁】【4(2)-10-2 表18】。</p> <p>本学部は2011年度から、本学の学士課程において唯一の「イングリッシュ・トラック」を開設している。本トラックでは、「Manga Culture」「Japanese Social Systems」「International Relations」「Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)」など、学部設置理念に則った授業科目77科目(国際教育プログラム基幹科目除く)を英語によって提供している。なお、科目数については、前年度に比べて14科目増加することができた。【4(2)-10-3 59-62頁】。</p>	2014年度のイングリッシュ・トラック開設科目は77科目で、前年度より14科目増加したとはいえ、日本語による開設科目238科目と比較すると不十分と言わざるを得ない。		イングリッシュ・トラックのカリキュラム改革を行うとともに、科目増のため以下を図る。 ①既存の日本語による講義を英語で隔年実施。 ②国際教育プログラム科目の中野キャンパス開講。 ③国際大学の教員による科目の開設。 ④他キャンパスや他大学の英語による講義を遠隔授業として実施。	新規教員任用において英語による授業が担当可能な人材をできる限り優先するとともに、海外協定校の英語による講義の遠隔授業実施も実現を図る。	4(2)-10-1 2015年度国際日本学部便覧18-23頁, 24-31頁《既出1-10-5》 4(2)-10-2 明治大学データ集表17, 表18, 表25《既出3-10-8》 4(2)-10-3 Academic Year 2015 School of Global Japanese Studies English Track Syllabus 59-62頁
b ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】	<p>豊かな人間性を涵養する教養的教育科目としての「総合教育科目」群には、社会人文科学のほかICTなども幅広く学べる科目が用意されており、全開講コマ数831科目のうち155科目(英語で講義を行う科目29科目を含む)は「総合教育科目」である。また、外国語科目以外の必修科目は、総合教育科目における4科目(8単位)(「国際日本学講座」「日本語表現(口頭表現)」「日本語表現(文章表現)」「ICTベーシックI」)である。</p> <p>さらに、学部の性格上、国際日本学専門科目はきわめて多様な専門領域にまたがる編成となっており、3・4年次配当の科目においても、領域を超えて履修することにより、深い教養を涵養することが可能である【4(2)-10-1 12-13頁】。</p>					4(2)-10-1 2015年度国際日本学部便覧12-13頁《既出1-10-5》

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
順次性のある授業科目の体系的配置(履修体系図やコース系統図の明示, 科目相関図, 4年間の履修モデル, 適切な科目区分など)						
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	<p>教育課程の編成・実施方針では、教育課程の体系性について、国際日本学専門科目は「学生が将来の進路や学問的関心に基づき、研究領域をまたがって体系的に履修できるように構成しています」と明示し、その概要は、授業科目の体系として、ホームページ、学部ガイドに示されている。また『便覧』に領域ごとの授業科目と配当年次を記載し、順次的履修に配慮している【4(2)-10-1 24-31頁】。</p> <p>また、演習入室までに事前に学習しておいてほしい内容を、新2年生総合ガイダンス及び演習案内にて説明し、演習で学ぶ専門性の高い学習につなげられるようにしている【4(2)-10-4】【4(2)-10-5】。</p> <p>科目配置の特徴として、まず本学部において何を学ぶかを考える「国際日本学講座」を1年次必修科目とし、主体的な学びに必要なスキルを身につけるために、本学部の教育研究の基礎となる「英語科目」と「日本語科目」、また「ICTベーシックI」を1・2年次必修科目としている。必修科目で修得した英語力をさらに向上させ、「英語で仕事ができるレベル」の英語能力を涵養するために、2年次以降に「Advanced Level TOEFL」「Academic Writing」、3年次以降に「Advanced Level TOEIC」など、多くの英語選択科目が提供されている。さらに、「英語で行われる授業科目」を12単位以上修得することを卒業要件としている。</p> <p>本学部では多くの科目が学生の自由選択に委ねられているが、基礎的・概要的な1・2年次配当科目と専門性の高い3・4年次配当科目というように、履修年次を区別することによって、学生が自らの関心に沿って、段階的に勉学を進めることができるよう工夫されている。3・4年次に、より専門性の高い教育研究を行う場としての「演習」を置くことによって、学生が教員と双方向的関係を持ちつつ自らの関心を深め、自主的に勉学・研究を進めることができるように配慮している。</p>					4(2)-10-1 2015年度国際日本学部便覧24-31頁《既出1-10-5》 4(2)-10-4 3・4年次演習(ゼミ)入室時までに学習しておく内容について 4(2)-10-5 2015年度国際日本学部演習案内
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手順を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	<p>教育課程の適切性を検証するため、学部内に「将来構想・カリキュラム検討委員会」を設置している。2014年度には委員会を4回開催して、定期的カリキュラムの見直し・検討を行った。</p> <p>検証プロセスとしては、自己点検・評価の結果、社会情勢や学生の履修状況などを参考に、学部長からの検討依頼を受けて「将来構想・カリキュラム検討委員会」で審議し、その審議結果を執行部会議、教授会で審議している【4(2)-10-6 議事9】。</p> <p>2014年度は、主に以下を検討のうえ、執行部会議、教授会で承認した。</p> <p>①2016年度に新たに「ホスピタリティ・マネジメント論」「国際マーケティング論」を開講すること ②2016年度に留学生用日本語科目(中級レベル)を開講すること ③2016年度に日本語教育人材育成プログラムを設置し、それに関連する科目「外国語としての日本語教授法」「日本語教育実践科目」を開講すること ④学部生に国際日本学研究科開設科目を先取り履修させること</p> <p>イングリッシュ・トラックのカリキュラムについては、イングリッシュ・トラック委員会で検討を重ねた。提案が具体化した時点で将来構想・カリキュラム検討委員会で審議することとしている。</p>	<p>教育課程の適切性を検証するにあたり、日本語トラックについては将来構想・カリキュラム検討委員会が審議・発議、イングリッシュ・トラックについてはイングリッシュ・トラック委員会が審議・発議して、将来構想・カリキュラム検討委員会で審議し、執行部会議および教授会で審議・決定するという手順が明確になっている。</p> <p>また、その検証プロセスは適切に機能し、改善につながっている。</p>		<p>完成年度を迎えたイングリッシュ・トラックのカリキュラムについて、検証・改善プロセスをさらにスピードアップし、2016年度中に2017年度入学生用新カリキュラムを完成させる。</p>		4(2)-10-6 国際日本学部教授会議事録(2015年1月24日)議事9「カリキュラム関係事項について」

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
	G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか							
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)							
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【1200字程度】 ※教育の内容そのものですので、しっかりと説明願います。	教育課程の編成・実施方針に関しては、グローバル化時代にふさわしい国際人を養成するため、「集中的な英語教育と国際教養教育」「日本の伝統文化と現代日本文化に関する教育」「これら文化の発信基盤である企業・産業・社会などの社会システムに関する教育」を柱とする基本的考え方を掲げ、これに基づき、専門科目を8領域に区分した教育内容を示している。8領域とは、(1)〈クールジャパン〉と呼ばれる現代日本の先端文化を学ぶ「ポップカルチャー研究領域」、(2)美術・ファッション・映像等の視覚文化を学ぶ「視覚文化研究領域」、(3)日本の産業・ビジネスの特質を学ぶ「社会システム・メディア研究領域」、(4)国際関係と異文化交流について学ぶ「国際関係・文化交流研究領域」、(5)世界の芸術・文化・思想を鏡にして日本を学ぶ「国際文化・思想研究領域」、(6)世界に発信する内容として日本の文化・思想を学ぶ「日本文化・思想研究領域」、この他、実践的なコミュニケーション能力を高めるための(7)「日本語研究領域」と(8)「英語研究領域」である。これら教育内容は、教育課程の編成・実施方針に適合したもものとなっている。 英語教育については、4技能を偏りなく伸ばすことを目指して1・2年次で集中的な英語授業を行っている。1年次の春・秋学期にそれぞれ3科目を週2回開講、合計12単位を必修とし、2年次の春・秋学期にもそれぞれ3科目を週2回開講、合計12単位を必修としている。他にも英語選択科目が現在15科目あり、少人数クラスでの集中的な英語教育を特徴としている。また「英語による講義科目」(一部は「イングリッシュ・トラック」で開講されている科目と重なる)を12単位以上履修することを卒業要件としているほか、2年次秋学期の「アカデミック留学・インターンシッププログラム」を正規授業と位置付けて、国際的な視野の涵養、及び日本研究の深化のための契機としている。 初年次教育については、1年次4月にクラス別に「大学における学習方法」「文献・資料の探し方及び活用」「レポートの書き方(剽窃の禁止喚起含む)」についてクラス担任からガイダンスを実施している。あわせて、必修科目として、国際日本学の共通認識を持つための導入教育「国際日本学講座」、日本研究の基礎となる日本語による文章表現やプレゼンテーション力を身につけるための「日本語表現(文章表現)」「日本語表現(口頭表現)」、すべての教育研究活動の基礎となるICTの能力を身につけるための「ICTベーシックI」の計8単位を設定している。 教養教育としては、社会人文科学の科目を中心とする「総合教育科目」を設置しており、その中には英語で講義を行う科目も開講している。 さらに、専門分野を学ぶだけでなく、学生と教員、あるいは学生同士のディスカッションやインタラクションを通じて成長できる場として、3・4年次に「演習」を開講している。これらの演習では、リサーチを行い、その成果をプレゼンテーションや論文にまとめたりする活動を通して、分析力や批判的思考力を基礎とした、生きる力を持った学生を育てている。 2014年度からは、演習に所属する学生の研究成果を広く発表する場を提供すること及び「国際日本学」の具体的な研究成果や実践的な価値を広く共有・理解することを目的に「国際日本学部学生論集」を発行し、10本の論文が掲載された。 教育の内容に関しては、国際日本学部ホームページ等で確認することができる【4(2)-10-7】。					4(2)-10-7 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割] http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p00000e66ny.html 《既出3-10-7》	

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
特色ある教育プログラムの内容とその効果(当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など)						
b ●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】	<p>特色ある教育プログラムとして、英語による授業のみの履修で学位を取得できる「イングリッシュ・トラック」を設置し、4月期と9月期に学生を受け入れている。2015年4月現在、同トラックの在籍者は62名で、国籍も多岐にわたる（アメリカ、カナダ、韓国、台湾、香港、カナダ、イタリア、オーストラリア、ウガンダなど）。それに伴い、日本語未習の「イングリッシュ・トラック」学生が日本語を勉強しやすいように、初級日本語も16科目開講している。</p> <p>「英語による授業科目」については、日本語のカリキュラムで開講されている科目のうち、77科目が英語でも開講されており、本学部の一般学生（＝日本語トラックの学生）には卒業要件として12単位の履修が義務付けられている。この「英語による授業科目」は、前述の「イングリッシュ・トラック」の学生も受講しており、一般学生にとっては授業内で留学生と英語でディスカッションやグループワークを行うことができ、英語力の向上及び異文化理解の促進という教育効果が見込まれる。</p> <p>また、国際日本学部開設科目において、当該科目の講義内容に直接的に関係のある学外の専門家または実務家を招聘し、講義内での一部を担当してもらい、授業効果を上げることを目的とする「リクエスト講義」を設置しており、2014年度は20コマの講義を実施した【4(2)-10-11】。講師はその分野で最新の知識と経験を有する方ばかりを招聘しており、学生にとっても貴重な内容の講義を提供できている。</p> <p>さらに、外国語によるコミュニケーション能力の向上を目的に、「セルフアクセスセンター」を利用した科目として「Independent Study A」(春学期)と「Independent Study B」(秋学期)を開講している。この科目では、学生が自分で外国語学習の目標を定め、そのための教材・方法も自分で選択し、ジャーナルにその学習状況を記録する。これにより、自分の学習を評価・内省することができ、自律した学習者が育成できている。今後、「Independent Study」の効果を検証し、学生が主体的・自律的に学習する科目やプログラムを構築していく。</p>					4(2)-10-11 国際日本学部リクエスト講義について
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果(学部間協定、短期海外交流など)						
c ●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】	<p>学部の特色である国際化を加速するため、大学全体で実施している留学に加え、学部独自の国際的な教育交流として「アカデミック留学・インターンシッププログラム」を設置している。</p> <p>留学先は「オレゴン大学」「ニューヨーク州立大学ニューパルツ校」「アラバマ大学」「インディアナ大学・パーデュー大学インディアナポリス校」「オックスフォード大学ハートフォード・カレッジ」「フロリダ州立大学」に、2014年度から「ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ」と「ハワイ大学」の2校を新規留学先として追加している【4(2)-10-8 87頁】。</p> <p>この留学には2年次秋学期から参加可能で、留学中に修得した単位は、24単位を上限に本学部の修得単位として認定される。例年多数の応募者があり、2015年度は95名が参加予定（応募者数全体の82%が参加予定）である。特にフロリダ州立大学への留学は、留学とウォルトディズニーワールドでのインターンシップを組み合わせたユニークなプログラムである。フロリダ州立大学での集中授業の後、ディズニーの幹部社員から講義を受けつつ、ウォルトディズニーワールドでキャストとして様々な業務に6か月間従事する。また、2014年度に新規留学先として協定を結んだハワイ大学ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジとのプログラムでは、大学での講義履修とハワイ州のホスピタリティー企業におけるインターンシップを組み合わせた約8か月間のプログラムで、具体的には日本航空株式会社ホノルル支店、JTB Hawaii, Inc., Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort, OUTRIGGER ENTERPRISES GROUPでのインターンシップを予定している。これらのインターンシッププログラムは、大学での学習と社会での経験を結びつけ、学習の深化や新たな学習意欲の喚起、主体的な職業選択につなげることができる内容である。</p> <p>また「国際日本学部外国留学奨励助成金制度」を設け【4(2)-10-</p>	2014年度に2つのプログラムが新設されたことにより、前年度からさらに多い人数の学生を海外へ派遣することができ、ディプロマポリシーに掲げる「国際社会で活躍できる人材の育成」を促進することができた【4(2)-10-10】。		大学間留学にとどまらず、国際交流基金等の独立行政法人との協定プログラムを開拓する。		4(2)-10-8 2015年度国際日本学部シラバス<履修の手引き>87頁, 88頁 4(2)-10-9 国際日本学部外国留学奨励助成金規程 4(2)-10-10 国際日本学部留学参加者数推移一覧

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>9】、上記プログラム参加学生のうち、一定の要件を満たす学生には、学部授業料の2分の1相当額を上限とする助成金を給付するという留学支援を図っており、2014年度は85名（全留学者数の96%）に総額約3,561.5万円（一人あたり41.9万円）を助成した。くわえて上記プログラムは、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度申請プログラムに採択され、54名の学生が奨学金の支給を受ける予定である。</p> <p>一方、学部独自の「短期語学留学」を、「ニューヨーク市立ステテンアイランド校」「オックスフォード大学ハートフォードカレッジ」「トロント大学」と提携して展開しており、2015年度は32名が参加の予定である【4(2)-10-8 88頁】。</p> <p>学生にとって語学力向上・異文化交流体験等のための貴重な機会となっており、本学部がディプロマポリシーに掲げる「国際社会で活躍できる人材の育成」に寄与する重要な制度となっている。</p>						

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(1)教育方法及び学習方法は適切か							
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態(講義科目, 演習科目, 実験実習科目, 校外学習科目等)との整合性							
a	<p>◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】</p>	<p>本学部の授業形態は、学部の教育目標である「国際人の養成」を実現するため、講義と演習を中心にして授業を展開している。具体的には、語学力を引き上げるコアとなる「英語科目」「第二外国語科目」「日本語科目」、教養科目を中心とした「総合教育科目」、本学部のさまざまな研究分野を集約した「国際日本学専門科目」を講義科目として設置している。なお、講義科目には、英語で授業を行う科目を設置し、学部の教育目標に則した授業を展開している。演習については、3・4年次に履修することとなる「演習科目」を設置している。学生それぞれが興味のある分野に関して専門性を極めることを目標として、2年間かけて同じ指導教員のもと研究に取り組んでいる。なお、国際日本学部では「演習科目」は必修とされていないが、2015年度の3年次演習入室率は92%であり、学生自身も演習科目の重要性を理解している。 その他、海外インターンシップや国内企業インターンシップを実習科目として位置づけ、科目「インターンシップ」を設置している【4(3)-10-1:18-31頁】。</p>					4(3)-10-1 2015年度国際日本学部便覧18-31頁《既出1-10-5》
b	<p>●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】</p>	<p>学部の教育課程の理念である「国際人の養成」に則した教育方法を採用している。英語教育としては、英語必修科目について、TOEFL等の外部英語試験を用いて3つのレベルに分けた「習熟度別クラス編成」と同一科目の週2コマの授業展開により、教育効果の向上を図っている【4(3)-10-2 52頁】。さらに、各習熟度別に統一シラバス、統一教科書、統一テストを行い、クラスにより教育内容や進度に差が生じないように工夫している。また、クラス定員を20-25名と設定し、少人数授業を実現している。あわせて幅広い国際教養を英語で理解できる力を身につけるために英語で行われる講義を77科目設置している【4(3)-10-3】。 講義科目、演習科目の多くは、最新のマルチメディア環境が導入された教室で授業が行われており、コンピュータ、OHC、DVD、メディアサイトなどの機器を授業の目的に沿って活用している。例えば、パワーポイントを使った学生によるプレゼンテーション、メディアサイトによる学生のプレゼンテーションの映像の撮影、DVDによる映画や画像の提示など授業目的により教員も学生も適宜活用している。一部の科目では学生にリアクションペーパー等を記入させ、教員が添削し返却するなどのアクティブラーニングもおこなわれている。 「演習科目」は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、学生が主体的に学ぶことのできる双方向性・相互啓発性の高い授業を運営している。一部の演習科目では、ゼミ論文を作成し、広く一般に公開する成果報告会を開催している【4(3)-10-4】【4(3)-10-5】。同様に一部の演習科目では、新宿区・中野区に対して地域の国際化発展のための研究報告と提言を行っている【4(3)-10-6】。なお、2014年度からは、演習に所属する学生の研究成果を広く発表する場の提供及び「国際日本学」の具体的な研究成果を発信することを目指して、「国際日本学部学生論集」を発行しており、</p>	<p>習熟度別少人数クラスの集中的英語教育により、2013年度入学生におけるTOEFL ITP®スコアを入学時点と2年後と比べると、平均点が31点の上昇、そして500点以上の割合が98人増加した。また、2013年度入学生のTOEIC ITP®スコアの平均点が715点となっている。これらのことから、現在の教育方法が高い学習効果をあげていることが確認できた。 【4(3)-10-8】。</p>	<p>今回検証した2013年度入学生は新カリキュラム適用初年度の学生なので、今後2014年度以降の入学生の外部英語試験の結果を蓄積・検証しさらなる学習効果の向上を試みる。</p>			4(3)-10-2 2015年度国際日本学部シラバス履修の手引き52頁《既出3-10-7》 4(3)-10-3 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割] http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p0000e66ny.html 《既出4(2)-10-7》 4(3)-10-4 国際日本学部ホームページ ニュース一覧2014年度[2014年度宮本ゼミ卒論発表会について] http://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2014/6t5h7p000000i51h6.html 4(3)-10-5 国際日本学部ホームページ [ニュース一覧2014年度「藤本ゼミ卒論発表会について]

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
	2014年度には10本の論文の掲載があった【4(3)-10-7】。					て]]http://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2014/6t5h7p00000i4wmc.html 4(3)-10-6 国際日本学部ホームページ [ニュース一覧2014年度「山脇ゼミが中野区長と外国人留学生、外国人住民の懇談会の記録をニュースレターにまとめました」] http://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2014/6t5h7p00000i89mx.html 4(3)-10-7 明治大学国際日本学部学生論集第1集(2014) 4(3)-10-8 国際日本学部TOEFL® TOEIC®統計資料《既出1-10-3》
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導(個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等)の工夫						
c ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】	1年間の履修科目登録(卒業要件単位として履修する科目)の上限は、再履修科目も含め、1年次が春・秋学期とも20単位まで、下限は前・後期とも6単位と定めている。2～4年次の履修上限単位は春・秋学期各24単位であり、下限は2・3年次が春・秋学期とも6単位、4年次は通年で12単位としている。また、4年次に12単位以上修得することとし、4年間を通じてバランスよく履修できるようにしている【4(3)-10-2:52頁】。 本学部は早期卒業制度を設けているが、3年間で卒業要件単位数を満たすことができるため、履修上限数の緩和措置は設けていない。 なお、2015年3月に卒業した360名のうち83%の学生が修業年限内(4年間)で卒業している。					4(3)-10-2 2015年度国際日本学部シラバス履修の手引き52頁《既出4(2)-10-8》
d ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスパワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】	履修指導について、年度始めの4月に学年別ガイダンスを実施する他、スポーツ入試入学生、留学生やイングリッシュ・トラック学生等を対象に、多様な入試形態に応じたガイダンスを実施しており、丁寧な履修指導を行っている【4(3)-10-9】 【4(3)-10-10】。ガイダンスでは、学年によって必要な情報をガイダンスごとに準備し、学生に提供している。例えば、新2年生用のガイダンスでは、3年次演習入室までに準備してほしい学習内容について資料と共にアナウンスしている【4(3)-10-11】。 学習指導について、語学教育の基盤となる「英語科目」のライティング授業では、学生が最初に提出したエッセイを教師やクラスメートのコメントに基づいて何度も書き直す「プロセスアプローチ」を導入しており、各学生がポートフォリオに自分の書いたエッセイのすべてを保管し、学習の経過を内省できるように工夫している。国際日本学部の専任・特任教員は、一週間に1時限「オフィス・パワー」を全員が設けている。特に、英語特任教員は、春学期週1コマ、秋学期週2コマを設けている【4(3)-10-3】。					4(3)-10-3 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割]http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.htmlhttp://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p00000e66ny.html《既出3-10-7》 4(3)-10-9 2015年度4月学習指導週間行事日程について(学年別) 4(3)-10-10 2015年度新入生指導週間案内 4(3)-10-11 2年総合ガイダンスパワーポイント

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>G列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p>					Alt + Enterで箇条書きに	
<p>学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援, TAの採用, 授業方法の工夫等)</p>							
<p>●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】</p>	<p>学生の主体的な学びを促す教育については、3年、4年次の「演習」では、学生が自ら研究テーマを設定し、それについて調査し、調査結果をまとめて論文にしたり、発表をしたりして、学生が主体となる授業形態をとっている。例えば、社会的マイノリティであったりすることで偏見を受けやすい方に“本”(語り手)となって、“読者”と1対1もしくは、1対数名で対話をさせていただくというヒューマンライブラリーを毎年開催している【4(3)-10-12】。また、田中大輔中野区長と国際日本学部の外国人留学生在が参加した懇談会「グローバル都市NAKANNOをめざして」を開催したり、地域の多文化共生をテーマに中野区長や地域の関係者と学生のパネルディスカッションを地域に公開して行ったりした【4(3)-10-6】。英語必修科目や選択科目においては、ペアワーク、グループワークを多用し、学生が相互に教室内で最大限のコミュニケーションを図れるように指導するだけでなく、学生自身による調査や研究なども取り入れたうえで、ディスカッションやプレゼンテーションを行っており、常に学生主導の授業が実施されるように配慮している。また、必修科目のリーディングでは、学生が英語で書かれた小説の中で自分が読みたい本を図書館で借り、それを読み記録する授業(extensive reading)なども展開している【4(3)-10-3】。さらに、中野キャンパスには、学生は英語学習の目標を決め、教材を選び、自律的に学習を進めることができるセルフアクセスセンターがあり、主体的に勉強できる施設がある。また、授業支援及び学習支援のため、2015年度は9名のTA(ティーチングアシスタント)と2名の助手を配置している【4(3)-10-13】。補習・補充授業については、スポーツ入学試験により入学した学生には、毎週英語の基礎が学習できるように課題を課し、1年間にわたり「個別指導」を行っている。</p>	<p>「ヒューマンライブラリー」や「多文化共生フォーラム」は、学生が調査、企画、中野区等地域関連団体との調整、運営などをおこなっており、学生の主体的参加を促す授業として、大きな効果がある。マスコミにも取り上げられ、社会的にも大きな影響をもたらしている。また、2013年度入学生におけるTOEFL ITP®スコアを入学時点と2年後と比べると、平均点が31点の上昇、そして500点以上の割合が98人増加した。また、2013年度入学生のTOEIC ITP®スコアの平均点が715点となっている。これらのことから、現在の取り組みが高い学習効果をあげていることが確認できた【4(3)-10-8】。</p>		<p>学生の主体的な学びを促す拠点として、中野キャンパスに国際交流・ゼミナール活動推進室と地域連携・ボランティア推進室を設置し、2名の助手を配置し、学部としての体制整備を進める。英語教育においては、今後2014年度以降の入学生の外部英語試験の結果を蓄積・検証しさらなる学習効果の向上を試みる。</p>			<p>4(3)-10-3 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割] http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p0000e66ny.html《既出3-10-7》 4(3)-10-6 国際日本学部ホームページ[ニュース一覧2014年度「山脇ゼミが中野区長と外国人留学生、外国人住民の懇談会の記録をニュースレターにまとめました」] http://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2014/6t5h7p00000i89mx.html 4(3)-10-12 国際日本学部ホームページ[ニュース一覧2014年度「ヒューマンライブラリー開催について」] http://www.meiji.ac.jp/nippon/info/2014/6t5h7p00000i07ad.html 4(3)-10-13 2015年度国際日本学部TA&助手一覧 4(3)-10-8 国際日本学部 TOEFL® TOEIC®統計資料《既出1-10-3》</p>
<p>(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか</p>							
<p>a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】</p>	<p>学部独自に、シラバス作成要領を作成のうえ、全教員に配布している【4(3)-10-14】。科目名、担当者、授業の概要・到達目標、授業内容(15回分)、履修の注意点・準備学習の内容、教科書、参考書、成績評価の方法などを明記し、半期15週の枠組みにおいて各回の講義内容を個別に記載し、Oh-o!Meijiシステム及びホームページで閲覧可能としている。この結果、シラバスの意義はほぼ全教員・学生に理解され、定着している。シラバスのすべての科目において学生に成績評価の基準を明示しており、成績の公平性を保つとともに、厳格公正な成績評価が行われている【4(3)-10-3】。</p>					<p>4(3)-10-3 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割] http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p0000e66ny.html《既出3-10-7》 4(3)-10-14 2015年度国際日本学部シラバス作成要領</p>	

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>G列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p>					Alt + Enterで箇条書きに
<p>b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>シラバスと授業方法・内容の整合については、毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて【4(3)-10-15】、「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」、「指定された教科書などは授業を理解するうえで適切でしたか」の調査項目を通じて、シラバスの到達目標の達成度を調査している。これらの項目についての数値は、2014年度春学期のアンケート集計では、前者の「思う(強)」が53.2%(全学平均40.8%)、後者の「思う(強)」が39.5%(全学平均30.1%)である。</p>	<p>学生のアンケートによると、シラバスの到達目標の達成度について全学の平均値を大きく上回っており、シラバスと授業方法・内容の整合性がとれていると評価できる。また、それを前年に引き続き継続できている点についても評価できる。</p>		<p>シラバスと授業方法・内容の整合性について、執行部において、授業改善アンケートの内容を継続的に調査・検証し、必要に応じて各教員に更なる取り組みを促す。</p>		<p>4(3)-10-15 授業改善のためのアンケート集計結果</p>
<p>c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>シラバスに基づいた授業を展開するための恒常的な検証について、英語科目、日本語表現等については科目担当の専任教員・兼任教員等が合同の会議を開催し、授業運営及び評価方法の確認・検証と統一を図るようにしている。その他の科目については、シラバスの内容について精粗がないよう「教務主任」の責任の下で事務局が点検を行い、必要に応じて担当教員に補筆の依頼を行っている【4(3)-10-14】。</p>					<p>4(3)-10-14 2015年度国際日本学部シラバス作成要領</p>
(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか						
<p>a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】</p>	<p>成績評価についてはGPA制度を導入しており、学部便覧に明示している【4(3)-10-1 32頁】。 各科目の成績評価方法及び事前・事後学習については、シラバスに項目を設け、各教員が提示している【4(3)-10-3】。 成績評価に対する学生の疑義に関する対応手続きについては、成績公開後、事務局及び担当教員に問い合わせをおこなえる期間を設け、万一間違っている場合は、成績評価の訂正をおこなっている【4(3)-10-16】。</p>					<p>4(3)-10-1 2015年度国際日本学部便覧32頁 《既出1-10-5》 4(3)-10-3 国際日本学部ホームページ[国際日本学部シラバス・時間割] http://www.meiji.ac.jp/nippon/outline.html http://www.meiji.ac.jp/nippon/6t5h7p00000e66ny.html《既出3-10-7》 4(3)-10-16 「2014年度秋学期・通年科目の成績発表」及び「2015年度履修登録」について</p>
<p>b ◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】</p>	<p>既修得単位の認定について、他大学等からの編入学生の単位認定については、当該学生が在籍していた大学等の成績証明書やシラバスを精査のうえ、教授会において本学部の修得科目として一括単位認定している【4(3)-10-17 議事11】。 本学の海外留学制度(セメスター・協定・認定)により留学した学生が現地で修得した単位については、学内で「単位認定取扱要領」を定め、学部内の国際交流委員会が単位認定案を作成し、執行部会議、教授会の審議を得たうえで海外留学認定科目などに、単位を認定している【4(3)-10-18】。短期語学留学参加者には、指定の学業成績を収めたものについては、2単位を付与している。 2014年度については、新たな留学プログラムができたことにより取扱要領を更新した</p>	<p>海外留学帰国時の単位認定について、海外の大学で修得した単位を適切に過不足なく認定できるように、「単位認定取扱要領」の一部改正をし、留学先での履修を計画的におこなえるようにしている。</p>		<p>今年度、新たなインターンシッププログラムが始まるため、国際交流委員会で、海外留学帰国時の「単位認定取扱要領」を状況に見合った内容に更新していく。</p>		<p>4(3)-10-17 国際日本学部教授会議事録(2014年10月3日)議事11「編入学生の単位認定について」 4(3)-10-18 外国留学先大学で修得した単位の単位認定取扱要領</p>

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	G列の点検・評価項目について、必ず記述してください			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		Alt + Enterで箇条書きに
(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究の機会について、英語科目を担当する教員は、2週間に1度火曜日の3時限目に会議を持ち、授業改善のために、授業の問題点や指導方法について、話し合っている。また、必修科目である「日本語表現」では、授業担当者が会議をおこない、講義内容、授業運営方法、成績評価方法等について、共有・意見交換をしている。 また、国際連携本部が2015年2月に実施した、英語での専門授業教授法についての海外研修プログラムに本学部の教員1名が参加し、授業の運営方法や英語による効果的な教授法について研修を受けた【4(3)-10-19】。					4(3)-10-19 大学教員のための海外研修の参加者について(通知)
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	授業改善アンケートを活用した教育内容・方法の改善については、全学の教育開発支援センターが春学期末、秋学期末の合計2回、授業改善アンケートを実施後、集計結果を教員に伝達し、個別の教員レベルで対応している。学部として、全教員に1教科以上の科目において授業改善アンケートを実施することを要請し、実施状況は、春学期が162コマ(開設コマ数の42%)、秋学期が144コマ(開設コマ数の38%)の実施であった。 なお、集計結果を教員に伝達するのみでなく、事務室カウンターにおいて、学生に公表することを教授会で決定しており、学生にはOh-o! Meijiにて公表時期についてお知らせを流している。		授業アンケート実施率は以前より上がっているが、依然低いため、アンケートを活用した教育内容・方法の改善が全ての科目ではおこなえていない。		アンケート実施率向上に向けて、執行部が教授会において、各教員の積極的な対応を要請する。	執行部が策定する向上策について、年度計画に沿って実施をはかる。
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育内容・方法等の改善を図る検証プロセスについては、「執行部」と「FD・自己点検・評価委員会」が協力して自己点検・評価をおこない、検証している。 2014年度については、より詳細に学習成果を測定するために、2015年度入学生から3年次春学期にTOEFL ITP®を課すこととし、従来よりも外部英語検定試験の受験の機会を1回分増やすことを決定した。					

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
(1)教育目標に沿った成果が上がっているか							
a	<p>●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】</p>	<p>学習成果を測定する指標について、学位授与方針内に具体的な到達目標を設定し、これを学力の達成度を評価する指標として確認している【4(4)-10-1:9頁】。学部教育の基礎を担う「英語科目」では、ミニマム基準を設定し、基準達成度の確認と授業における改善課題の明確化に取り組んでいる。同時に、学生には定期的にTOEFL[®]、TOEIC[®]を受験させ、この結果を英語の習熟度別クラス編成、海外留学の基準にするとともに、学習成果の測定基準として各種指導に活用している。なお、2014年度入学生においては、1年次の11月に86.6%の学生(350名中303名)がTOEFL-iBT[®]テストを受験した【4(4)-10-2】【4(4)-10-1:18頁】。</p> <p>また、2015年度入学生から、より詳細に学習成果を測定するために、3年次春学期にTOEFL-ITP[®]を課すこととし、従来よりも外部英語検定試験の受験の機会を1回分増やした。</p>	<p>2014年度2年生のTOEFL-ITP[®]スコアで500点以上取得した割合を2013年度2年生と比較すると50%増加した。また、2013年度入学生のTOEIC-ITP[®]スコアの平均点が715.8点となっている。</p>		<p>年度ごとのスコアをもとに継続的に英語科目群において英語カリキュラム等を検証するとともに、新しい測定方法を導入した2015年度入学生の学習成果のデータを集計している。</p>		<p>4(4)-10-1 2015年度国際日本学部便覧9,18頁《既出1-10-5》 4(4)-10-2 国際日本学部TOEFL[®]TOEIC[®]統計資料《既出1-10-3》</p>
b	<p>●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約800字】</p>	<p>学位授与にあたり重視する科目として、3・4年次に履修する「演習科目」の履修及びその成果としての「ゼミ論文」や「卒業研究」の作成が挙げられる。「演習科目」における教育研究活動は最終成果を成すものであり、約9割の学生が演習科目を履修している。</p> <p>学習成果の可視化に留意している事項として、例年ゼミナール協議会主催による「ゼミナール大会」を開催している【4(4)-10-3】。なお、2014年度については、ゼミナール協議会参加ゼミ全14ゼミ中8ゼミナールからの発表があった。また、2014年度からは、演習に所属する学生の研究成果を広く発表する場の提供及び「国際日本学」の具体的な研究成果や実践的な価値を広く理解・共有することを目的として、「国際日本学部学生論集」を発行し、10本の論文が掲載されている【4(4)-10-4】。</p> <p>学位授与率は、2015年3月卒業生においては、80.7%であるが【4(4)-10-5 表30】、その表では4年生総数(母数)に交換留学生の学生数も含まれており、実際は84.5%であった。</p> <p>卒業生の進路として、「卸・小売・製造業」、「専門・技術サービス業、情報通信業」などが多くの割合を占め、特に海外に進出している日系企業に就職している。また、旅行関係、情報通信関係など、語学力や国際感覚を要する業種への就職が目立ち、学部の目指す人材育成像に合致した人材を多く輩出している【4(4)-10-6 31頁】。</p>	<p>2014年度に「国際日本学部学生論集」を発行したことにより、各演習がどのような研究をしているか具体的に確認することができた。また、演習入室希望者にとって、自身の研究希望と入室を希望する演習のマッチングがより明確にできるようになった。</p>		<p>論文の公募を現在よりも徹底し、論文数を増加させる。また、学生論集を国際日本学部HPに公開することで、学習成果を広く周知させる。</p>		<p>4(4)-10-3 ゼミナール大会開催揭示 4(4)-10-4 明治大学国際日本学部学生論集第1集(2014)《4(3)-10-7》 4(4)-10-5 明治大学データ集表30《既出3-10-8》 4(4)-10-6 2016年度国際日本学部ガイド31頁《既出1-10-7》</p>
c	<p>●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか。 【約400字～600字】</p>	<p>学生の本学部に対する評価を授業レベルでみた場合、「授業改善アンケート」において、「あなたは講義を熱心に受講したと思いますか」、「この授業で新しい知識や考え方を得ることはできましたか」の調査項目によっておこなうと、これらの項目についての本学部学生の回答は、前者の「思う(強)+思う(弱)」が67.7%(全学平均62.6%)、後者の「思う(強)+思う(弱)」が82.1%(全学平均73.0%)であり、いずれも全学の平均を上回っている【4(4)-10-7】。</p> <p>卒業生からの評価については、2014年度から、卒業予定者を対象としてアンケートを実施し、国際日本学部のディプロマポリシーで示す能力の修得状況をはじめ、留学プログラムや教育課程について幅広く調査している【4(4)-10-8】。なお、今回調査した学生は旧カリキュラムの最後の学年だった。</p> <p>また、学生の評価を聞く機会として、イングリッシュ・トラック学生との懇談を実施しており、イングリッシュ・トラック全般について直接意見を聴取する機会を設けている。なお、2014年度に聴取した結果、科目数の不足、日本語中級レベルの不足について意見があがった。この問題点を解消すべく日本語中級レベルについては2016年度に科目を開設すべく現在準備を進めている。</p>	<p>2015年3月に卒業した学生に実施したアンケートの結果、ディプロマポリシーで示している5項目の達成度を調査した結果、平均71.3%の学生から肯定的な意見を得ることができた。</p>		<p>2016年度に卒業する予定の新カリキュラムが適用された学生へのアンケート結果を分析し、実態把握を行う。</p>		<p>4(4)-10-7 2014年度授業改善のためのアンケート集計結果《既出4(3)-10-15》 4(4)-10-8 2014年度卒業生向けアンケート実施結果について《既出4(1)-10-6》</p>

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画			
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか							
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	卒業要件については、学部便覧や毎年度配布するシラバスに、学期に定める期間在学し、科目群ごとの所定の条件を満たし、124単位以上修得することを明示し、毎年度4月に開催している学年別ガイダンスで周知している。さらに、4年次12月には、卒業ガイダンスを2回開催し、卒業要件を再度確認するようにしている。また、2013年度以降の入学者より、早期卒業制度の対象となるため、当該学年の「学部便覧」【4(4)-10-1:14~17頁】に明記するとともに、4月の学年別ガイダンスで周知している。						4(4)-10-1 2015年度国際日本学部便覧14~17頁《既出1-10-5》
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	学位授与にあたっての責任体制と手続については、「卒業判定処理フロー」(2014年12月12日教授会承認)に基づき、2月下旬の執行部会議及び教授会で不合格者の審議を行い、当該学生に成績照会期間を設けた後、3月開催の執行部会議及び教授会において厳正に卒業判定を実施している【4(4)-10-9】。 早期卒業については、学部内で内規を定め、内規に則して当該学生が成績優秀者かどうかを検証し、教授会にて承認した上で卒業を認めることとしている【4(4)-10-10】。						4(4)-10-9 卒業判定フロー 4(4)-10-10 明治大学国際日本学部早期卒業に関する内規

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
G列の点検・評価項目について、必ず記述してください							
「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目							
「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述							
(中長期的対応) H列にあれば記述							
Alt + Enterで箇条書きに							
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか(「AP」の全文記述は不要です)							
求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表							
<p>a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。</p> <p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】</p>	<p>国際日本学部では「教育方法と教育目標」と「入学志願者に求める高校等での学習への取り組み」からなる入学者の受け入れ方針(アドミッションポリシー)を定め、「21世紀の地球社会に貢献できる国際人の養成」という教育理念に基づき、求める学生像として次の7点を定めている。</p> <p>①世界から注目を集めている日本のアート、文学、マンガ、アニメ、演劇、映画、ファッション等と古典的な芸能、美術、思想、宗教などを学際的観点から探究したい者</p> <p>②日本の社会の基盤をなす企業・産業のシステムについて興味を持ち、その仕組みを追究したい者</p> <p>③国際関係の諸問題や、世界の各地域の文化・社会・経済・歴史に関心を持ち、関連する知識の修得を目指す者</p> <p>④英語で論理的に考える思考力を身につけるとともに、どのような場面でも、的確になおかつ効果的に英語でコミュニケーションする力を身につけたい者</p> <p>⑤「世界の中の日本」を考え、国際的な視野を養いたい者</p> <p>⑥多様な文化や国際交流に興味があり、多文化共生社会の進展に貢献することを目指す者</p> <p>⑦日本文化の基礎である日本語を世界の中の一言語として客観的に捉え、正しい日本語の使い手になる意欲を有する者</p> <p>また、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準については、「英語による発信力を培うための基礎的な言語能力を身につけていること」、「文化や社会システムについて学ぶうえで、高等学校の社会科その他の教科書や補助教材を理解できる一般的な基礎学力と、それらを応用できる力」、「論理的に思考する力」が求められることを明記している。</p> <p>入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している【5-10-1:4～9頁】【5-10-2】。</p> <p>なお、一般選抜入試の「出題のねらい」で、各教科(英語、国語、日本史B、世界史B、政治・経済)ごとに求める具体的な知識等の内容・水準を示し、学部ホームページで公表している【5-10-3】。</p>						<p>5-10-1 2015年度明治大学入学試験要項(学部一般入試, センター利用入試, 全学部統一入試)4～9頁</p> <p>5-10-2 国際日本学部ホームページ[国際日本学部入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)] http://www.meiji.ac.jp/nippon/policy/03.html</p> <p>5-10-3 国際日本学部ホームページ[2015年度 出題のねらい(一般選抜入試)] http://www.meiji.ac.jp/nippon/exam/index.html</p>
障がいのある学生の受け入れ方針と対応							
<p>b ●該当する事項があれば説明する 【約200字】</p>							

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか							
a ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか)【約400字】	<p>入学者の受け入れ方針に基づき、学生募集は入学者選抜方法ごとに8方式で行っている。一般入試として、より多くの受験生に受験機会を提供する「一般選抜入学試験」、「大学入試センター試験利用入学試験」、地方からの学生確保を主な目的とした「全学部統一入学試験」を実施している。これら3つの試験については、受け入れ方針の内容を反映させ、試験科目「英語」の配点を他の試験科目よりも高く設定している。</p> <p>また推薦入試として高大連携強化の一環としての「付属高校推薦入学試験」(面接による選抜)、「指定校入学試験」(書類選考と面接による選抜(海外指定校については書類選考のみ))を行っている。特別入試としては、異文化交流や国際的教育機関形成に資する「外国人留学生入学試験」(日本留学試験、および書類選考・面接による選抜)、海外での就学経験と異文化交流体験をもつ学生を対象とした「海外就学者特別入学試験」(小論文・面接による選抜)、大学・学部の活性化に資する人材確保を目的とした「スポーツ特別入学試験」(書類選考と面接による選抜)を採用している。また、2011年度入学試験からは外国人留学生入学試験の中に、「イングリッシュ・トラック入学試験」(書類選考による選抜)を実施し、これについては、4月入学者対象の入試に加え、9月入学者対象の入試も行っている【5-10-4:3頁】。</p> <p>これらの学生募集、入学者選抜の実施方法は、入学者の受入方針に掲げる「求める学生像」に即した志願者を受け入れるための多様な方式を採用しており、方針と実施方法は整合している。</p> <p>なお、各入学試験とも、合否判定基準、実施要領を事前に教授会で承認及び報告のうえ、公平・公正に入学者選抜をおこなっている。</p>	<p>海外指定校入試において、2014年度は中国から1名、韓国から1名を受け入れることができ、受け入れ方針に明記している「多様な文化や国際交流に興味があり、多文化共生社会の進展に貢献することを目指す者」の受け入れ実現の一端を担うことができた。</p>		<p>海外指定校入試の指定校になっている学校からの出願状況を検証し、海外指定校入学者数を全体で5名程度受け入れる。</p>			5-10-4 2015年度明治大学入試データブック 3頁
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか							
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性							
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。また、学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である(学士課程)。【約200字】	<p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、1.12である【5-10-5】。また、2015年度の収容定員は4学年で1,350名、在籍学生数は1,606名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.19である。なお、イングリッシュ・トラック編入学試験により、2年次に1名、3年次に1名が入学した。</p>						5-10-5 明治大学データ集表35《既出3-10-8》
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応							
b ◎現状と対応状況【約200字】	<p>収容定員に対する在籍学生数比率は1.19であるが、2015年度入試では350名の定員に対し、404名の入学者(2014年秋入学者含まず)であり、全体の比率より改善している。また、在籍学生数には短期間在籍する海外からの交換留学生42名を含んでおり、当該学生数を除くと、収容定員に対する在籍学生数比率は1.16になる。</p>						
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか							
a ●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【400字】	<p>入学者の受け入れ方針は、入試科目と入学定員の見直しについて「教授会」で審議する際、あわせて見直している【5-10-6 議事3】。また、入学試験制度については、学部の「入試委員会」で、方法、科目、配点等を毎年度検証している他、指定校等の推薦入試、留学生等の特別入試のあり方を検討している。さらに、在籍学生比率の適正化については、「学部執行部」で検討の上、教授会で審議し、翌年の入学者数を決定している。</p> <p>また、入試問題の外部評価制度に則り、外部機関に入試問題の評価を委託し、その評価を参考にしながら入試問題の見直しを図っている。</p> <p>2014年度は、海外指定校先として、新たにタイの高校2校と協定を結ぶことができた。</p>	<p>海外指定校の選定について検証し、さらなる拡大を目指した結果、タイの高校2校と協定を結ぶことができた。</p>		<p>入試委員会及び学部で、継続的に入試制度を検証し、受け入れ方針に則した学生をより多く獲得できるようにする。</p>			5-10-6 国際日本学部教授会議事録(2015年2月14日)議事3「入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)の検証並びに2016年度一般入試及び特別入試について」

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	G列の点検・評価項目について、必ず記述してください			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		Alt + Enterで箇条書きに
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか						
a	<p>●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】</p>	<p>国際日本学部では、学生が大学生生活を充実させられるよう、学生生活全般の支援や環境整備、留学生、障がいのある学生のサポートを含むきめ細かい修学支援、学生の経済的負担を軽減し勉学に集中できる環境を整えるための奨学金制度、学生の能力や特性を生かすことのできる進路や職業を選択してもらうための就職キャリア支援をより一層充実させることを修学支援・進路支援の方針としている。</p> <p>上記方針は、2014年度中に次年度の「教育・研究に関する年度計画書」作成時に検討したもので、同計画書を教授会で審議承認することにより、組織的に共有されている。</p>				
b	<p>●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。</p> <p>○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】</p>	<p>修学支援のための仕組みや組織体制について、本学部では、全学的な支援システムではフォローしきれない部分のきめ細かい支援を行なうことを目標とし、「学生部委員」を中心として、「執行部」と「クラス担任」が連携して、次のような修学支援を行っている【6-10-1】。①「修学指導内規」に基づいて、成績不良者に対し学期の開始時に、当該クラス担任等による面談・指導を行う。②年度の初めに、総合ガイダンス・学年別ガイダンス等を開催し、教員によるカリキュラム等の説明や事務職員による履修関係に関する説明を行うとともに、事務室窓口においても個別の履修相談を実施する。さらにスポーツ特別入試や留学生入試などの特別入学者については、個別の説明会を実施する【6-10-3】【6-10-4】。③本学部が力を入れている英語については、英語の各担当教員がオフィス・アワーを実施し、英語科目を中心に授業科目の履修や内容など全般に関する相談や、成績不良者に対する修学指導も実施している【6-10-2 37頁】。</p> <p>留年者及び休・退学者の状況把握と対応については、休退学・除籍等の学籍異動は、本人からの申し出時における相談と詳しい事情聴取及び情報提供、届出の受領、教授会での承認等、学内手続に則って、適切に処理されており、状況把握が十分に行われている【6-10-5 表41】。</p> <p>障がいのある学生に対する修学支援については、その障がいの内容を鑑みて対応している。一例としては、ある障がいを抱えて入学した学生には月に2回、学生相談室の臨床心理士と面談を行い、その面談を通して現状の把握に努めている。また、当該学生が履修している授業担当者に、その障がいの説明と対応例を事前に周知し、学生・教員双方が円滑に授業に臨めるようにしている【6-10-6】。</p> <p>外国人留学生については、学部内の「国際交流学生委員会」および「イングリッシュ・トラックのクラス担任」がさらにきめ細かく対応することとしている。具体的には、国際交流学生委員会の学生が、イングリッシュ・トラックにて入学した留学生に対して大学内だけでなく生活面でのサポートを行っている。また、渡日前の留学生で、高校卒業から4月入学までかなりの時間が空いてしまう学生からの要望を受け、入学前に学習できる課題を作成し、事前学習支援を実施した【6-10-7】。</p> <p>学生支援体制の強化として、外国人留学生を含む様々な学生からの相談に応えるため、本学部の教員の学生相談員を2015年度より2名体制に増員し、学生相談室における支援を拡充する体制を整えた。</p> <p>本学部では Semester 留学制度による留学生に対して選考の上助成を行う外国留学奨励助成金制度等を設けることによって、学生に対する経済的支援を行っている。この制度は「国際日本学部外国留学奨励助成金規程」として校規に規定されており、2014年度においては85名が受給した【6-10-8】。</p> <p>学生支援の適切性の検証プロセスについては、修学指導対象となった学生の修学状況や成績の推移を学期ごとに「執行部」で確認しているほか、学生によるゼミナール協議会、および国際交流学生委員会の活動支援を通じて、学生からの要望を反映する仕組みとしている。</p>	<p>渡日前の留学生への事前学習支援について、留学生が定期的に提出した課題を教員が添削するなど、個別にきめ細かい対応がなされた。これにより、入学前に時間が空いてしまうことによる不安解消や、日本での学習意欲を高めることができた。</p>	<p>渡日前留学生の学習支援について、今回は個別のケースとして実施したが、入学前から学生が教員とコミュニケーションをとり、学習意欲を高め、安心して入学してもらう良い機会であり、今後は留学生のニーズをふまえながら、継続的な渡日前の学習支援体制を整えていく。</p>		<p>6-10-1 国際日本学部修学指導内規 6-10-2 2015年度国際日本学部便覧37頁《既出1-10-5》 6-10-3 2015年度4月学習指導週間行事日程について(学年別)《既出4(3)-10-9》 6-10-4 2015年度新入生指導週間案内《既出4(3)-10-10》 6-10-5 明治大学データ集表41《既出3-10-8》 6-10-6 アスペルガー症候群の学生対応について(教員配付用) 6-10-7 入学前の課題について 6-10-8 国際日本学部外国留学奨励助成金規程《既出4(2)-10-9》</p>

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	

(2)進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。

<p>a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】</p>	<p>学生に対する進路支援については、学生が将来展望を描き、それに基づいて、将来設計を考えることについて支援することを、年度計画書に記載し、教授会で決定している【6-10-9 145頁】。 なお、教職員については年度計画書を教授会で承認することにより、組織的に共有している【6-10-12】</p>					<p>6-10-9 2015年度教育・研究に関する年度計画書145頁《既出1-10-1》 6-10-12 国際日本学部教授会議事録(2014年6月20日)議事6「2015年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について」《既出1-10-10》</p>
<p>b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】</p>	<p>学生のキャリア支援に関しては、学部内に「キャリア形成委員会」を設置し、就職キャリアセンターや中野教育研究支援事務室（就職キャリア支援セクション）と連携して、きめ細かく各種支援行事をおこなっている。4月には全学年のガイダンスにおいて、就職支援及びキャリアデザインについて説明するとともに、学部のゼミナールごとの説明会等も実施している。 本学部は、外国人留学生が多く在籍することから、学部独自に、以下のとおり、外国人留学生対象に日本の就職活動の仕組み等の情報を提供するとともに、エントリーシートの書き方や面接対策を個人別に実施するなど実践的なサポートをおこなうキャリア支援プログラムをおこなった【6-10-10】。 ① 4年生対象の就職支援講座（6月の講義） ② 3年生対象のプレ就職・進路ガイダンス（7月の講義） ③ 1～4年生対象のサービス接遇検定対策講座（9月、3日間の講義） ④ 3～4年生対象の就職活動支援講座（事前準備編）（10月の講義） ⑤ 3～4年生対象の就職活動支援講座（実践編）（2月の講座）。 また、国際日本学部ゼミナール協議会が実施する就職活動イベントの支援を実施した【6-10-11】。 キャリア教育を推進し、大学における学習と社会での経験を結びつけ、学習の深化や新たな学習意欲の喚起、主体的な職業選択につなげるため、学則別表に「インターンシップ」を科目として設け、全学共通インターンシッププログラムや自己開拓した企業でのインターンシップに参加した場合の単位認定を行っているほか、フロリダ州立大学との協定に基づくインターンシップ留学プログラムの単位認定を行っている。さらに、2014年度からは新たにハワイ大学との協定に基づく新たな学部独自のインターンシップ留学プログラムを開始し、11名の学生の派遣がすでに決まっている。</p>	<p>2014年度の就職率は83.3%と他学部と比べても遜色ない達成率だった。【6-10-12 表32】就職先としては、昨年度に引き続き「外資系企業」、「海外展開をする日系企業」、また旅行・航空、情報通信関係</p>				<p>6-10-10 キャリア支援行事一覧2014年度 6-10-11 国際日本学部ゼミナール協議会ホームページイベント一覧 http://gjs-seminar.main.jp/?page_id=17 6-10-12 明治大学データ集表32《既出3-10-8》</p>

2014年度国際日本学部 自己点検・評価報告書

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a ◎自己点検・評価を定期的の実施し、公表していること 【約400字】	<p>本学部における自己点検・評価は、学部執行部および学部内に設置された「国際日本学部FD・自己点検・評価委員会」によって毎年度行われている。同委員会は一般教育主任を委員長とし、他5名の専任教員の全6名で構成されている。教育研究および学内業務の経験の豊富なベテラン教員や、本学や他大学で自己点検・評価実務を行った経験のある教員が、その経験を活かし、報告書作成を学部執行部と連携して行っている【10-10-1】。</p> <p>2014年度は委員会を2回開催し、自己点検・評価報告書の原案を点検した。同報告書は2014年10月3日開催の教授会で審議に付し、その後全学の手続きを経てホームページで公開している【10-10-2 議事9】【10-10-3】。</p> <p>自己点検・評価にあたり、「授業改善のためのアンケート」、「イングリッシュ・トラック学生との懇談」そして「卒業予定者アンケート」などが有効な手がかりとして活用されている。「授業改善のためのアンケート」では授業満足度が高い傾向にあることが確認された一方、「イングリッシュ・トラック学生との懇談」では、設置科目数の少なさ、中級レベルの日本語科目が他キャンパスで開講されていることなどの課題が認められた。「卒業予定者アンケート」では、学部に対して肯定的な意見・印象を持って卒業する学生の割合が多いことが確認できた。</p> <p>自己点検・評価の結果は学部執行部にフィードバックされ、学部教育の改善に活かしやすい態勢が構築されている（執行部メンバーの一部は将来構想・カリキュラム検討委員会や入試委員会等、各種学内委員会の委員長等を兼ねている）。</p>		2014年度から卒業生を対象としたアンケートを実施し、自己点検・評価に生かすことができたが、左記のアンケートや懇談について、実施の多寡や頻度の点で、なお充実が望まれる。		「授業改善のためのアンケート」について、専任・特任・兼任教員に協力をより呼びかける（メールでのリマインダー等を活用する）。	「イングリッシュ・トラック学生との懇談」について、定期的を実施し、同トラック改善の効果を継続的に検証する。	10-10-1 2014-2015年度学内委員会名簿 《既出3-10-6》 10-10-2 国際日本学部教授会議事録(2014年10月3日)議事9「自己点検・評価報告書について」《既出4(3)-10-17》 10-10-3 国際日本学部HP [自己点検・評価] http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか							
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	<p>本学部の内部質保証の基本方針は、学部長以下の「学部執行部」、及び「FD・自己点検・評価委員会」を責任主体とし、両者が評価結果及び改善点を検討・整理し、学部長に報告するものとしている。また教育活動への反映に関しては、学部長の決定した方針に基づき、学内各種委員会(将来構想・カリキュラム運営委員会、入試委員会、国際交流委員会、人事委員会、イングリッシュ・トラック運営委員会、広報委員会等)が改善案を作り、教授会の議を経て年度計画書に反映させることで、学部全体の内部質保証の仕組みを構築している。</p> <p>2014年度については、前年度の自己点検・評価報告書で改善を要すると報告されていた英語特任教員任期切れに伴う英語カリキュラム維持について学内内で検討し、「年度計画書」に組み入れて学長に英語教育を担当する教員の専任化を要求した。その結果、英語教育を専門とする専任教員の2名の採用が許可され、昨年度の点検結果が生かされることとなった。</p> <p>学外者からの意見聴取については、父母との交流が特筆される。入学時の新入生父母説明会における質疑応答のほか、毎年度全国各地で開催される父母懇談会で個別相談を行い、そこで得られた父母からの意見を整理して報告書にし、必要に応じて学部執行部や関連学内部署に通知している【10-10-4】。</p>	昨年度改善を要すると報告された問題について、英語教育を担当する教員の専任化を実現することができた。その結果からも、内部質保証システムは適切に機能していると判断できる。		引き続き現在の内部質保証システムを継続していくとともに、今後本学部にも適用される「改善アクションプラン」の内容にも取り組んでいく。			10-10-4 2015年度父母総会・父母懇談会開催日程